

# 事業計画事例～ITシステム関連編

事業計画事例では、開業レポート2012のアンケート調査やインタビュー取材でヒアリングした数字をもとに、起業して成功している会社のリアルな事業計画をサンプルとして作成しました。これから起業・独立する方は是非ご参考ください。

## 1. 開業資金と開業費用

開業資金・費用ですが、ITシステム関連事業で開業する場合、開業資金はそれなりに用意しておくべきです。この事例では自己資金800万円に加えて、借入で更に800万円の計1600万円を開業資金に設定しています。内訳は、事務所費用が最大で計240万円(契約金30万円、前家賃30万円、保証金を6カ月分で180万円)。パソコンやプリンター、通信機器などのOA機器で150万円、机や椅子などのオフィス用品で50万円、文房具や事務用品等で10万円。初期仕入れは開発用サーバの契約金として10万円を計上。会社設立費用を30万円、しめて500万円です。システム開発の仕事を受けるために最初から開発スタッフを揃える必要があるため、機材やオフィス用品を揃える費用が発生します。

<b>開業資金</b>	<b>1,600万円</b>
内訳	800万円(自己資金)
	800万円(借入)
	万円(その他)

<b>開業費用</b>	<b>500万円</b>
店舗賃貸契約費	30万円
店舗保証金	180万円
店舗前家賃	30万円
事務所・店舗費用(工事費など)	10万円
厨房機器・空調機器など	万円
店舗用品など	万円
オフィス用品など	50万円
OA関連機器など	150万円
文具・事務用品など	10万円
その他(初期仕入れ費用)	10万円
会社設立費用・開業諸経費	30万円

## 2. 売上、経費、利益

	初年度	2年目	3年目	
<b>売上(年間)</b>	5,000万円/年	7,500万円/年	10,000万円/年	
<b>経費 (1カ月単位)</b>	<b>原価</b>	60万円/年 (5万円/月)	84万円/年 (7万円/月)	120万円/年 (10万円/月)
	<b>人件費</b>	2,400万円/年 (200万円/月)	3,600万円/年 (300万円/月)	4,800万円/年 (400万円/月)
	<b>役員報酬</b>	1,200万円/年 (100万円/月)	1,800万円/年 (150万円/月)	2,400万円/年 (200万円/月)
	<b>家賃等</b>	360万円/年 (30万円/月)	360万円/年 (30万円/月)	360万円/年 (30万円/月)
	<b>水道・光熱費</b>	96万円/年 (8万円/月)	144万円/年 (12万円/月)	192万円/年 (16万円/月)
	<b>広告宣伝・販促費</b>	万円/年 (5万円/月)	万円/年 (5万円/月)	万円/年 (5万円/月)
	<b>その他営業諸経費</b>	120万円/年 (10万円/月)	180万円/年 (15万円/月)	240万円/年 (20万円/月)
	<b>借入金の返済</b>	180万円/年 (15万円/月)	264万円/年 (22万円/月)	360万円/年 (30万円/月)
	<b>利益</b>	584万円/年	1068万円/年	1528万円/年

次の売上、経費、利益を見てみましょう。売上は1年目で5000万円、2年目で7500万、3年目で1億円という試算です。1年目の経費と利益ですが、主な経費はまず人件費で年2400万円/月200万円。これは社員を4～5名ほど正規で雇用する想定です。つぎに事務所家賃が年360万/月30万円。あとは借入金の返済も月15万円と大きいです。それ以外で、意外にかかるのが光熱費(主に電気代)で年96万/月8万円。原価として計上したサーバ代は年60万/月5万円程度。役員は2名として、報酬合計を年1200万/月100万を計上。こうして試算すると毎月368万円の出費となります。

開業資金1600万のうち、開業費用を引いて残った1100万円の資金では、3カ月で資金が尽きてしまいます。売上が順調に推移すれば1年目で584万円の利益が残る試算ですが、大きな受注案件が1つか2つ無くなってしまうと利益が吹き飛ぶので、この計画でも決して安心はできません。ただ、経費は固定分のみのため、受注案件をどんどん増やしていければ、2年目で1068万円、3年目で1528万円となり、利益は残りやすいとも言えます。